

監査結果報告書

2020年6月1日

社会福祉法人保健福祉の会 殿

監事 北田喜美代

監事 佐藤 晃敏

私たち監事は、社会福祉法第40条および関連法に基づき2019年度（2019年4月1日から2020年3月31日）の監査を以下のとおり実施しましたので報告します。

監査日時 2020年5月28日（木）9時30分～16時00分

監査場所 都和のはな3階会議室

立会人 上田法人理事長、川原法人常務理事、田村法人経理職員、松山介護事業経理職員、坪田老健西の京事務長、猪熊特養都和のはな施設長、和田グループホーム都和のはな管理者、和久田虹の家管理者、京藤青い空保育園園長、阿加井洛西保育園園長 竹内 白い鳩保育園園長、谷川あらぐさ保育園園長 田村児童支援パーチェ管理者

監査結果

1. 社会福祉法人保健福祉の会の2019年度財務諸表及び総勘定元帳、会計伝票、証拠書類の点検照合を行いました。違算なく合致しており適正に処理されていることを認めます。

2. 法人および各事業所

(1) 法人の結果

新型コロナウイルス感染症への対応に追われるなか、利用者、職員の安全を守るため奮闘している役職員の皆様に敬意を表します。

今年度もコロナ対策に追われ厳しい1年となりますが、社会福祉としての役割を果たしながら更に事業を維持し発展させられることを心より期待いたします。

2019年度の法人合算では、当期活動増減差額8,540万円の黒字となっています。前年度よりも減益となるものも予算を上回る黒字を確保しています。事業毎では、介護事業で▲1,004万円の赤字、保育事業5,674万円、児童支援事業3,061万円の黒字となっています。

事業活動のサービス活動収益は15億5,100万円となり、前年より2,413万円（101.6%）の増収、予算に対しては4,313万円（102.9%）の超過となっています。事業毎には、介護事業1,572万円（前年比102.1%）の増収、保育事業▲330万円（前年比99.5%）の減収、児童支援事業1,172万円（前年比109.3%）の増収となっています。

資金収支差額合計では、1,976万円の黒字となっています。今期の100万円以上の投資は、白い鳩保育園人工芝敷設工事155万円、洛西保育園外壁塗装工事395万円・防犯カメラ一式174万円、青い空保育園木製展望台110万円、パーチェ・第二パーチェ床暖房工事220万円、特養都和のはな介護リフト176万円、老健西の京スチームコンベクション142万円・電動ベッド一式381万円・印刷機311万円・電話システム150万円、保育園・児童支援事業園バス565万円であり、固定資産取得総額は3,520万円となっています。取得手続き、資金も事業活動資金収支差額や京都市補助金等で対応しており適切です。

財政面では、総資産は、25億9,921万円で前年度より2,454万円の増加となっています。固定資産は、取得資産、積立金等の増加、減価償却の差引で2,660万円の増加となり、負債は、5億5,286万円で前期より▲4,673万円の減少となっております。財政面では安定しています。

法人運営では、理事会の出席率は100%（前年度87.5%）、評議員会は100%（前年度87.5%）となっています。毎月定期に介護事業部会・保育事業部会・児童支援部会が開催され、効率的な運営が行われています。

(2) 各事業所・施設の結果

①介護事業

特養都和のはなでは、入院が少なくベッド稼働率95.9%と昨年度(94.3%)より向上しています。ショート利用率1.2%と昨年度と0.5%upにとどまっています。西の京は、在宅強化型老健を1年間維持していますが、超強化型老健を展望するにはまだ課題があります。今年度から訪問リハの開始、通所リハについては、プログラムやレイアウト変更等を行い新規利用者も確保していますが回復には至っていません。グループホーム都和のはなは、退所もなく入院中のベッド活用35日間で稼働率は98.5%となっています。ケアステーション虹の家は、管理者の退職に伴い居宅介護支援事業虹の家を12月に休止しています。利用者の移行も円滑に行われています。訪問介護の件数についてもヘルパーの入れ替わりにより減りましたが、2・3月に40件を回復しています。

決算の特徴は、サービス活動収益で、特養都和のはなは、前年比103.2%の増収、老健西の京は102.8%の増収、GH都和のはなは105.2%の増収、虹の家は79.5%の減収、合計で102.1%、1,574万円の増収となっています。当期活動増減差額は、特養都和のはなは▲68万円の赤字、老健西の京は▲463万円の赤字、GH都和のはなは32万円の黒字、虹の家は▲504万円の赤字(常勤体制を厚くしたことによる)、合計で▲1,004万円の赤字となっています。

②保育事業

消費税の10%増税とともに幼児無償化が実施され、10月からは給食費を1か月6,500円として対応しています。ヒヤリハット・事故のデータの傾向分析につづき、更なる検討を進めています。又、大津の園外保育中の交通事故を受けて、園外保育の安全対策マニュアルの見直しが求められました。

各園の入園状況は、白い鳩保育園1か月平均122.8名、洛西保育園1か月平均143.1名、あらぐさ保育園1か月平均56.2名、青い空保育園1か月平均74.2名、となっています。白い鳩保育園では、120名定員で118名の定員割れでスタートしたことを受け人件費対策やクラスを超えた連携に力をいれています。洛西保育園では、大型連休の預かり保育を行っています。あらぐさ保育園では、園長交代、定年退職、人事異動で1名受け入れ、年度途中で2名の産休入りということで、職員体制は厳しい状況でした。0歳児の入園やベテラン保育士の定年により、委託費が減少しています。青い空保育園は、3月末で移管が終了しました。定員に対し120%でスタート、年平均123.61%の受け入れとなり、年度途中でのクラス移行を行うなどして対応しています。安定的な運営をしていくためには入所児童数の確保は欠かせません。この先の動向を見極めながら具体策を検討していくことが求められます。

決算の特徴は、サービス活動収益で、白い鳩保育園97.4%の減収、洛西保育園101%の増収、あらぐさ保育園88.8%(チーム加算なし)の減収、青い空保育園111.1%の増収となっています。当期活動支差額は、白い鳩保育園762万円の黒字、洛西保育園2,254万円の黒字、あらぐさ保育園799万円の黒字、青い空保育園1,858万円の黒字、合計で5,674万円の黒字となっています。

③児童支援事業

児童発達支援事業所が増える中で選ばなければどこかに入れる状況にあり療育待機児童の状況がつかみにくくなっていますが、パーチェへの希望は多く待機がある状況となっています。大きな期待がある一方で、職員確保と育成が課題となっています。処遇や児童支援事業部長・パーチェ管理者について検討が求められています。

利用者状況は、パーチェ年間3,281名(1日当たり11.5名 前年度比率104.2%)、第二パーチェ年間2,723名(1日当たり9.5名 前年度比率98%)、パーチェ梅小路年間2,653名(1日当たり9.3名 前年度比98.6%)相談支援パーチェ計画相談316件(月平均26.3件)モニタリング262件(月平均22.2件)となっています。

サービス活動収益では、パーチェは前年比107.4%、第二パーチェは前年比105.5%、パーチェ梅小路118.2%、相談支援パーチェ102.5%、合計で前年比109.3%(1,174万円の増収)となっています。

当期活動増減差額は、パーチェ1,122万円、第二パーチェ802万円の黒字、パーチェ梅小路820万円の黒字、相談支援事業パーチェ316万円、合計で3,061万円の黒字となっています。